第86号

宇治市の教育だより

発行　宇治市教育委員会
〒611－8501
京都府宇治市
宇治琵琶33番地
TEL（0774）21－1879
https://www.city.uji.kyoto.jp/

編集　学校教育課内
「学校教育広報」
編集委員会

学校の新しい生活様式

新型コロナウイルス感染症拡大防止と豊かな学びを目指して

ソーシャルディスタンスを確保

教室での授業

体育館での授業

小学校

稲刈り

外の活動でもマスクを着用したり、一方向を向いたりして作業

ピーマンの苗付け

飲食に関する活動は、感染症対策を講じた上で実施

お点前体験

各学校では、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策として、様々な工夫をしながら学習活動を進めてきました。マスクを着用することや近距離では大声を出さないことなど、子どもたちにとって新しい生活様式を取り入れた学校生活は大きな変化でした。その中でも、子どもたちは希望を胸に前向きに取り組んでいます。その様子をご紹介します。

宇治市宣伝大使
ちはや姫

中学校

ICT機器を活用して、各教室で学校生活や部活動の様子等を紹介

新入生歓迎会

理科（実験）

できる限り、器具の共用を避けるなどの対策を実施

総合的な学習の時間

「課題解決型学習」として、タブレットを使用して調べ学習や発表を行い、コロナ禍の中でも対話的な学びを実現

体育大会

種目の選択を見直し、競技に工夫を加えて学年ごとに実施

部活動

練習方法を工夫しながら、部活動も再開し、市夏季・秋季大会も一部形態を変更して開催

第39回 宇治市「中学生の主張」大会

第39回宇治市「中学生の主張」大会は、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、従来の宇治市文化センターでの発表ではなく誌上発表(主張作文集)としました。市内11中学校から自分自身の経験をもとに部活動や家族の存在から得たこと、差別や環境問題、ＡＩ等、将来について考えたことを自分のことばで力強く書いた作品が集まりました。例年、京都府立宇治支援学校の生徒の日常活動を紹介しているパネル展示も、誌上発表としました。

京都府立宇治支援学校の発表のページ

〔表紙絵〕
木幡中学校3年　平野 志歩　作成

◆ 受賞者

宇治市教育委員会賞	宇治市青少年健全育成協議会賞	宇治市連合育友会賞
西宇治中学校 3年　中島　陽花	宇治中学校 1年　橋本　彩花	南宇治中学校 3年　千葉　奈美

◆ 各校代表者

No.	代表者名	学　校　名	学年	発表主題
1	橋本　彩花	宇治中学校	1	部活動から得たもの
2	森本 なぎさ	北宇治中学校	2	離ればなれの生活
3	廣岡　幸乃	槇島中学校	3	人間とＡＩが生きる世界
4	中島　唯月	西小倉中学校	3	初めて気づく大きな存在
5	中島　陽花	西宇治中学校	3	「当たり前」に感謝を
6	千葉　奈美	南宇治中学校	3	私の母
7	宮方　一晴	広野中学校	2	ぼくのお姉ちゃん
8	新川　泰良	東宇治中学校	2	プラスチックごみの環境問題は レジ袋の有料化だけで解決するのか
9	金子　晃大	木幡中学校	1	この夏、考えた事
10	宮原 真裕子	黄檗中学校	3	笑顔あふれる未来を目指して
11	上月　千聖	立命館宇治中学校	2	傍観者

My kindergarten pride ～私たちの園自慢～
(昨年度の取組を含む)

東宇治幼稚園

大根の収穫

遊びを通して学びに向かう力を育む

本園は宇治川と黄檗山の間に位置し、ビワ・ヤマモモ・ミカンなどいろいろな果実が実る自然豊かな幼稚園です。

本園では、園児自らが興味や関心をもったことに、じっくり取り組む時間と場を大切にしており、直接体験や遊びを通して、根気や集中力など学びに向かう力を育んでいます。また、『ふるさと宇治』の文化や伝統に触れ、地域の人々や近隣の小中学校、京都大学宇治キャンパス等との交流を行うなど生活や学びの連続性を大切にしています。

宇治小学校半日体験

買い物当番

京都大学出前授業

園外保育
(黄檗山萬福寺)

My school pride ～私たちの学校自慢～

（昨年度の取組を含む）

木幡小学校

木幡小学校は、開校54年目を迎えます。今年度は、児童数728名でスタートしました。本校は藤原道長が建立した「浄妙寺」の地に建設されました。

今年度は、新型コロナウイルス感染症の感染予防の影響もあり、学校行事等の大幅な見直しや授業での活動の制限を行っています。。

このような今までに経験をしたことがない困難なときだからこそ、他者を思いやり、新しいことにチャレンジしようとする心を育てようと、教職員一同が学校目標のキャラクターでもある「挑戦（イドムちゃん）」「努力（ツトムちゃん）」「絆（キズナちゃん）」「笑顔（エガオちゃん）」を意識し、全ての教育活動の中で具現化することを目指しています。

「校区探検」 3年（社会科）

「どんな建物?」「道幅は?」「交通量は?」校区地図を頼りに、実際にその場所に行って、調べました。

「ゴミとくらし」 4年（社会科）

パッカー車の仕組みやゴミの行方を知ることで、環境問題が自分たちの身近なものだと知りました。

「キャリア教育」
5年（総合的な学習の時間）

働くことの喜びや楽しさを感じ取りました。（キッザニア甲子園にて）

「修学旅行」
6年（淡路・姫路方面）

ホテルでは、ソーシャルディスタンスを確保しながら、食事をしました。

宇治中学校

宇治中学校は、今年で開校74年目を迎えます。全校生徒は、563名、18学級で「ALL FOR DREAMS」を学校教育目標に掲げ、日々教育活動を進めています。

4人組での授業形態を取り入れ、生徒は学び合いを実感しながら学習をしています。また、全校体制で終学習に取り組み、基礎基本の徹底を図っています。

今年度、生徒会方針を「One Heart（ワン・ハート プラス※）」とし、宇治中生全員が心を1つにして+（プラス）発言、+（プラス）思考を大切に、+（プラス）な１年にしよう！と、学習や部活動、委員会活動等、何事にも積極的に取り組んでいます。

１年で大きな行事である学校祭は、自分たちの手で創り上げるため、その思いを漢字一字で表し、3年生のリーダーを中心に取り組みます。

また、小中一貫教育では、宇治中学校ブロック2小1中で、「主体的・対話的で深い学び」の視点を踏まえて国語力をどうつけるかを、研究授業を通して研修しています。中学生による小学生へのクラブ指導（駅伝、鼓隊）も心温まる交流となっています。これからも、学校・家庭・地域のつながりを大切に、宇治中学校ブロックが一丸となり、自校を誇りに思える学校づくりを目指していきます。

※One Heart：アルファベットの「t」をプラス記号の「+」とも読む。

▲4人組での学び合い

▲全校体制での終学習

▲学校祭 体育の部

▲学校祭 文化の部

▲小中合同での研修

▲陸上部による小学生への駅伝指導

シリーズコラム　子どもの心と育ちを考える

第2回

心の動きはひとそれぞれ ～多様性を大切に～

新型コロナウイルス感染症は、依然として広がりを見せています。春先の感染拡大はひとまず収まりましたが、7月から8月にかけてのいわゆる第二波、さらに11月中旬からの第三波と感染は増減をくり返しています。

不安と、うっすらと漂い続ける緊張感の中に私たちはいるわけですが、どんな風に過ごしていけばよいか、少しばかり考えてみたいと思います。特に、感染してしまった方々やその周辺の方々への差別やいじめが起きないようにするためには、どうしたらよいでしょうか。

まず、「新型コロナウイルス感染症に対する感じ方は、人によって、かなり異なっている」ということです。感染に関する心配な心持ちが非常に強く、感染の可能性のあることをすべて避けている人もいます。その一方で、マスク・手洗いなどの「必要なこと」はしっかりしながらも、感染についてはあまり心配しておらず、おおらかな過ごし方をしている人もいます。今回の新型コロナウイルス感染症については、不安や心配のあり方が、かなり多様になっていることを、強く感じています。こうした、「多様性」を、できるものなら認め合いたいものです。もちろん、必要な感染防止対策は、十分に行った上で、ですが。

次に、「感染を防止するための対策を丁寧に行ったとしても、残念ながら感染をゼロにすることは難しい」ということを認め合えるとよいと思います。どうやら、かなり気を付けて対策を取っていたとしても、感染してしまう可能性はあるようです。これはどういうことかというと、「感染は、本人の責任とはいい難い場合も多い」ということなのです。一時期、「自己責任」という言葉が流行りました。確かに、責任を負うべきことには責任を負うべきでしょうが、責任を負えないことについてまで、人を責めることはないようにしたいものです。

三番目に、「感染に関する正確な知識に基づいた言動を心掛ける」ことも大切かと思います。春の、いわゆる「第一波」の時に比べると、ウイルスの特徴や対処法も、かなり分かってきています。感染拡大防止への注意はもちろん引き続き大切ですが、必要以上に恐れることもまた、状況を悪化させてしまうでしょう。

「心と育ちを考える」というコラムで、なぜ新型コロナウイルス感染症について取り上げているのかと思われるかもしれませんが、感染者への差別やいじめは「心」という観点からも考え続けたい問題です。また、「感染への不安」だけではなく、「感染したら、社会的に抹殺されるのではないか」という不安が、思春期の子どもたちの間に（そして、大人たちの間にも）広がっているようです。この不安に向き合いながら子どもたちに関わる中で、心や行動の多様性を認め合うことの大切さを、あらためて感じています。

（スクールカウンセラー　K・M）

1人1台端末（iPad）の導入に向けて

現在、iPadの導入に向けて様々な検討や検証を進めています。導入に先立ち、市内小中学校の5校において、授業で使用する「授業支援ソフト」を先行的に研究しています。

プリントやドリルの代わりとして、交流や発表のツールとして、デジタルカメラとして、辞書の代わりとして・・・。様々な方法での活用が期待され、授業のスタイルが大きく変化します。今までの教育のノウハウを継承しつつ、ICTを活用し、さらに学習効果を高め、児童生徒の学力向上を目指します。

実際に中学校3年生が数学で二次関数の学習をしている一場面です。今までノートやプリントに記入していたことを、端末の画面に記入しています。

導入する端末機器（iPad）

宇治市 教育委員会委員の紹介

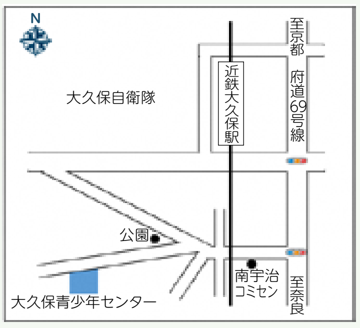
教育長	岸本　文子
同職務代理者	加賀爪　毅
委員	中筋　斉子
委員	小山　栄子
委員	左　聡一郎

この度、教育委員会教育長に岸本文子氏、教育委員に加賀爪毅氏と左聡一郎氏が任命されました。左聡一郎氏は、金丸公一氏が10月31日をもって任期満了で退任されたことから新たに任命され、岸本氏と加賀爪氏は再任です。宇治市教育委員会は教育長と4名の委員から構成されている合議制の執行機関です。

大久保青少年センターが移転しました

◆令和2年8月1日、大久保青少年センターは、旧所在地の大久保町平盛から、大久保幼稚園跡地に移転しました。

◆文化、芸術、スポーツなどの活動を通じて、青少年の皆さんの健全な育成を図るとともに、青少年に限らず、すべての年代の方が生涯学習活動の場としてご利用いただくことができます。



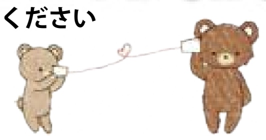
◎開館時間　午前9時～午後5時（4月～9月は午後6時まで）
※貸館利用は午後10時まで
◎休館日　月曜日（祝日除く）、年末年始
◎所在地　宇治市大久保町山ノ内3
TEL：0774-39-9281　FAX：0774-39-9282

小・中学生の皆さん、保護者の皆さん

「ふれあい教育相談」

電話でもメールでも　お気軽にご相談ください

電話　0774-39-9179（サンキュー　ク　イ　ナ　ク）
平日の午後1時から5時まで
メールアドレス　k-soudan@city.uji.kyoto.jp



メールアドレス用QRコード